教員氏名：早瀬 博典（教育学科・児童教育専攻／講師）

1. 教育の責任（何をやっているか）

担当科目と指導内容

教育学部教育学科、児童教育専攻、学校教育コースに所属し、主に小学校教員の養成に関連する「社会」および「生活」の専門的事項や指導法に関する授業と、小学校教諭免許状の取得に必要な「初等学校体験活動」を担当している。

また、学生指導の基盤となるゼミとして、「教育学研究法Ⅰ・Ⅱ」と「卒業研究」を担当し、卒業論文指導や進路指導を行っている。関連して、2025年度は3年生の学年団を担当している。加えて、ミズーリ州立大学への留学プログラムでは面接指導を、保育士を目指す学生の就職支援としては小論文指導を、それぞれ行っている。

非常勤講師としての活動

非常勤講師として、常磐大学で「中等社会科・公民科教育法Ⅰ」、「中等社会科・公民科教育法Ⅱ」を担当している。

課外活動の支援

課外活動では、バスケットボール部の顧問を務め、大会参加に関する手続きや引率を担当している。

社会貢献、学術貢献、国際交流の教育への還元

社会貢献として、NPO 団体「むすびつくばライズ学園」と連携し、不登校の子どもを支援する社会科プログラムの開発、実践を行っている。

また、学術貢献および国際交流として、日本社会科教育学会の幹事および国際交流委員を務め、海外の教育学研究の調査および日本の教育の発信を行っている。

上記の社会貢献・学術交流、および国際交流から得た最新の知見を、日々の授業を通して教員をめざす学生に提供している。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

学校教育における社会正義に基づく包摂の実現

学校教育における「社会正義に基づく包摂」を「すべての子ども、学校関係者のための教育の実現」と捉え、理論的・実践的に考究している。とくに社会科教育で「社会正義に基づく包摂」理念を導入する方略について、アメリカを事例とした理論と実践に関する論文を発表している。研究成果は2022年に博士論文となり、2025年には日本学術振興会より助成金を獲得し、『アメリカ社会科のインクルージョン理念と方略』として出版した。こうした研究背景より、すべての学生の「個」を尊重することと、組織としての「社会的公正」を両立することを、自らの教育理念としている。

学生の個に応じることと社会的公正の両立

様々な背景や個性をもった学生一人ひとりにとって、いかなる支援が必要かを考え、提供することを大切にしている。

同時に、学生が将来、社会を担う公正な市民として成長するために、いかなる学びが必要かを検討し、提供することを目指している。

このように、「個」と「社会」双方を両立し、尊重することを、教育で体現するように心がけている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

理論と実践の統合

「社会正義に基づく包摂」の理論を、実践的な「社会」や「生活」の授業に統合するように意識している。たとえば「社会」では、「同心円の拡大」の理論を「子どもが学ぶ環境の拡大」として捉えさせ、市や町、県、国、世界へと、学習内容が広がっていくことを実践的に指導している。また「生活」では、自己紹介や学校探検といった実践を体感させながら、それらが「活動あって学びなし」に陥らないための理論を伝えている。このように理論→実践、実践→理論を往還できる授業を念頭に置いている。

担当授業の実践例

講義系の科目では、毎時間パワーポイントまたはテキストをコピー・配布して、それに

基づく板書や解説を行っている。また、授業内容に対応したワークシートを配布し、振り返りを通じて学びを深められるようにしている。

演習系の科目では、理論解説に加えて、グループワークや調査活動といった、対話的で体験的な活動を組み込むようにしている。

ゼミ活動では、学生一人ひとりの興味関心を大切にして、興味のある分野の知識を広げられる資料の提供や、研究計画書および論文執筆の指導をしている。また、調査活動の一環として学外（図書館等）に赴き、資料収集や議論を行うこともある。

小論文指導では、論文執筆のルールと評価観点に基づき、文章の添削や修正案の提示を行うことで、学生の文章作成能力向上を支援している。

個に応じた支援と公正な市民（社会人）としての指導

学生の教育および関係構築にあたっては、個人のニーズや思いを尊重した支援と、将来なりたい仕事に就くうえで必要な社会人としての指導の両立を心がけている。

授業やゼミでは、教員と学生双方向のコミュニケーションを大切にするとともに、文章やメールの規範について主体的に習得できるように指導している。

学生が相談を求めた際には、多様なコミュニケーションツール（対面・メール等）を通して相談にのるよう努めている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

振り返りシートの分析結果

「生活」授業での振り返りシート結果を毎時間確認している。その結果によれば、理論と実践を結んだ授業内容と、個に応じた指導は好評である様子が見えてきた。

卒論ゼミでの学びの成果

「卒業研究」授業にて学生の作成した研究計画書を確認すると、提供した様式を基にしたが改良を加え、各自が興味のあるテーマに主体的に取り組んでいる様子を窺取できた。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的目標

多様な学生の個性とニーズを尊重した支援と学びの提供を、より一層心がけたい。同時に、市民として必要な知識やスキルの獲得を保証できるように、授業や指導を工夫したい。

中期的目標

卒業研究で実地調査を希望する学生が増えているため、学生と教育現場のつながりを提供できるように努めたい。

また、授業アンケートの結果を確認でき次第、教育の成果への反映と、自らの授業実践を振り返り、改善に活用したい。

長期的目標

日本の教育関係組織や教育現場、海外の教育関係組織や教育現場などを対象として、最新の教育に関する調査を継続し、時代の変化に対応できる小学校教員養成を目指していきたい。

また、自らの研究成果を全国学会や海外学会で広く公表し、確かな理論に基づく実践の指導ができるように、日々精進を心がけたい。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

1 担当科目のシラバス

(2025年6月1日現在)